

どうする家康：設楽原古戦場を駆け巡れ！



・どうする家康：設楽原古戦場巡り順路

- ①【設楽原歴史資料館】 ⑪【丸山砦跡】：設楽原決戦の北の位置。
・火縄銃・火おんどり・岩瀬忠震の3つのコーナー。
- ②【天王山】：勝頼公指揮の地の碑 ⑫【謎の塚】：五味与三兵衛の塚
・内藤昌豊の塚もそばに寄り添うようにあります。
- ③【信玄塚】：供養の火まつり ⑬【土屋昌次公の塚】カルムの家前。
・毎年8月15日には戦没者の供養火おんどりが行われる。
- ④【首洗池】：設楽原の戦いの戦没者の遺体を洗い清めた池と伝わる。
- ⑤【勝楽寺】：戦いのゆかりのお寺、勝利に因んで松楽寺から勝楽寺に変更。
- ⑥【家康本陣】：八剣神社が設楽原の決戦の戦地本陣です。
- ⑦【家康物見塚】：徳川家康の著者山岡荘八氏揮毫の石碑。
- ⑧【山縣昌景公墓】：【火おんどり坂】の途中にあります。
- ⑨【甘利信康公墓】：資料館から馬防柵への柳田激戦地にあります。
- ⑩【馬防柵再現地】：連吾川沿いに120m再現されています。



④ 設楽原の古戦場 決戦場まつりなどで歌われています。

設楽原には、設楽原をまもる会等の努力下、戦国の史跡が数多く保存され護られています。



織田信長・徳川家康の築いた馬防柵の弾正山風景(ドローン撮影)



【馬防柵再現地】

地元の郷土史研究会の【設楽原をまもる会】が合戦当時織田・徳川連合軍が、武田軍の騎馬の侵入を阻止するために築いた柵(馬防柵)を1981年に復元した物。全長120m

【設楽原古戦場をカルタでめぐる】

- ・設楽原をまもる会は、昭和58年4月1日に、『かるたでつづる設楽原古戦場』を発行した。設楽原の戦いに関係する戦国の武人を48句で詠んだものです。それぞれ関係する場所にイロハカルタの看板を立てて、往時を偲べるようになっています。設楽原の戦国の歴史の跡を、かるたで訪ねて見ましょう。



- ・設楽原は、長篠城から4キロほど離れた場所です。中央を連吾川が真っすぐ流れ、弾正山(織田・徳川軍)と信玄台地(武田軍)が陣を張りました。目の前に敵の兵士の動きが分かる距離でした。狭くて細長い設楽原で、織田・徳川軍3万8,000人、武田軍1万2,000人の兵士が死闘を繰り広げました。

👉 設楽原決戦場の地図



新東名高速道路の開通により古戦場の景観も大きく変わりました。